

優秀賞

イコール

桶川中学校二年 角 紬蔵

皆さんは、数学などで用いられる「イコール」という単語の原義を御存じでしょうか。それには様々な意味がありますが、最も大きな意味として「平等」があります。オリンピッククイヤーとなったこの二〇二一年。四年に一度のこの自由と平和の祭典が日本で行われたことを機に、私は、「本当の平等とは何か」、また「それを実現するために私たちに何ができるのか」をこの文章を通し、皆さんに考えていただければと思います。

今から五・六年前のことです。そのころ、クラスではドッジボールが流行っていて、休み時間にドッジボールをする人が多くいました。私もそのときは仲間に加わって遊んでいたわけですが、あるとき、その集団に女子が

いないことに気がつきました。しかし、そのときは小学校低学年ということもあり、あまり疑問に思わず、今まで通りの生活を送っていました。そんな出来事から何日か経ったとき、そのときの担任の先生から、ある話がありました。その内容は、

「男子とも女子とも、分け隔てなく対等に接しなさい」

というものでした。そのとき私は、自分には関係ないと思っていましたが、後に友人からの話で、私がいつも一緒に遊んでいた集団に向けての話だったと知りました。また、その集団に女子がいなかったのも、一部の人々が入れるのを拒んでいたからだ、ということも同時に知りました。この出来事で指導を受けたのは私だけではありません。しかし、時が経ち、私はこの出来事を他人事で終わらせてはいけなさと考えるようになりました。そして、同じようなことが、もう起きないように、先生の言葉とそのとき持った自分の考えを胸に刻み、生活していくようになりました。

皆さんも、「平等」という言葉を聞いて、

思い出す場面がいくつかあると思います。私は、その場面の一つ一つを常に胸に刻んで生活するべきだと思います。この文章での一人称は「私」です。この漢字は「わたし」や「わたし」という読み方があります。私は、性別などにとらわれない、自由で平等な社会への、このような小さな一歩が、やがて大きな進歩につながるのではないかと考え、それはまたさらなる行動へのかけ橋になるのだと考えました。

この文章の始めに、「本当の平等とは何か」、また、「それを実現するために、私たちに何ができるのか」を考えてほしいと書きました。私は、「本当の平等」とは、誰とでも同じように接することではなく、同じ人間として考えや思いを伝え合うことだと考えます。誰とでも同じように接することも、もちろん平等な世の中を創り上げていく上では大切ですが、それは意志があればできることだと思いません。しかし、今後、環境問題などの影響で忙しなく動き続ける社会を歩んでいく上で、私はより多くの人々が手を取り合い、感情や

意見を共有し、共に進むことが最も重要なのではないかと考えたのです。

そして、その考えに基づき、私は身近にある「小さな不平等」に気を配ることで、身近な不平等を少しずつ改善するように働きかけることが大切だと思いました。

大きなものは、一人で変えるのが難しいかもしれませんが、でも、身近で小さなものなら、簡単に変わることができると私は思います。

また、こういった小さなことを少しずつ実践することが、世界的な平等につながると私は信じています。

小さな平等の輪が、大きなものとなり、世界中が包まれることを願って。